

日本体育大学「第61回体育研究発表実演会」を見学

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 大谷三穂一等海佐）は、日本体育大学との間で教育、研究、社会貢献等の幅広い分野で相互に協力するため、この度は双方の発展に資することを目的とした協定で、令和3年より継続して締結しているものです。これまで神奈川県地方協力本部からは市ヶ尾募集案内所（所長 細田拓郎2等空尉）が同大学保健医療学部救急医療学科に対して「部隊見学」、「職種説明」、「大学授業への講師派遣（自衛隊衛生科隊員）」などで協力をを行っています。

このような協力関係にある中、11月26日（火）、日本体育大学から「第61回体育研究発表実演会」に大谷本部長をはじめ関係職員が招待され見学をしました。会場となった横浜アリーナ（横浜市港北区）には1万人を超える観客が詰めかけており、オーピングセレモニーでは陸上自衛隊第1音楽隊が力強く行進曲を演奏しながら整然と入場し、その後の実演会に歌と演奏で花を添えました。特に演目の『愛の賛歌』で女性隊員が美声を披露すると会場から盛大な拍手が沸き起こり、「感動〜！」「まだまだ聞いていたい」などと嬉しい言葉をいただいています。

神奈川地方協力本部は、今後も各教育機関と連携を図り、学生に自衛隊の魅力を発信し、将来の職業の選択肢の一つとして自衛隊を選んでいただくよう努めていきます。



中学生の職場体験を支援～相模原市立中央中学校

自衛隊神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 栗野晃光三等陸佐）は、11月27日（水）から29日（金）にかけて、相模原市立中央中学校の2年生30名に対する職場体験を支援しました。これは「令和6年度さがみはら中学生職場体験」の一環として実施しているもので、生徒が働くことの喜びと大変さを実感し、自らの働き方や生き方について考えることを学ぶ取り組みとなっています。

27日及び28日は中央中学校において、陸上自衛隊の職務の説明のほか、装具装着体験、ロープワーク、救急法（止血の要領）などの実習を行いました。装具装着体験では、野外活動時に使用する背のうを背負ったり、カモフラージュのためのドーランを顔に塗ってみたいするなど、生徒たちは興味を持って取り組んでいました。

29日は海上自衛隊厚木航空基地に赴き、連絡機「LC-90」及び輸送機「C-130」の機内見学、手先信号体験、基地食堂における喫食などを行いました。滑走路への航空機の進入許可を行うシミュレーター体験では、隊員から「英語の発音も良くスムーズに誘導できた」と言われ、笑顔を見せていました。

参加した生徒からは、「装具や背のうを身につけて行動できる自衛官は、すごいと思った」「パイロットの席に着くなど貴重な経験ができてうれしかった」「自衛隊が日本を守るために働いてくれることが理解できた」との声が聞かれました。

相模原地域事務所は「今後も地域の中学校との連携を密にしながら積極的に職場体験を支援し、ひとりでも多くの生徒に自衛隊という職業への理解を深めていただけるような機会を提供していきたい」としています。

